

宮城県美術館フォーラム「リニューアルってなんだろう？ 美術館の新しい一歩を考える」

の報告について

- 1 実施日 平成 30 年 1 月 27 日(土)
- 2 開催場所 宮城県美術館講堂
- 3 来場者数 89 名
- 4 内容

(1) 事例紹介



「ようこそ、新潟市美術館へ」
塩田 純一新潟市美術館長



「にぎわいのある美術館作りへの挑戦」
杉野 秀樹富山県美術館副館長

お二人からは、美術館リニューアルの際に問題となった点や目指したことについてご説明いただきました。

(2) パネルディスカッション

《コーディネーター》

杉野秀樹氏(富山県美術館副館長)

《パネリスト》

塩田純一氏

(新潟市美術館長)

濱田淑子氏

(宮城県美術館利用者・宮城県美術館リニューアル基本方針策定検討会議委員)

横山美喜子氏

(東北生活文化大学短期大学部准教授)

有川幾夫宮城県美術館長



パネルディスカッションでは、主に「人々が憩い、くつろぎ、集い、つながる美術館」についてや「子どもと美術館」、「ヴィジブル・ストレージ」についてが話題となりました。

「人々が憩い、くつろぎ、集い、つながる美術館」については、飲食スペースの必要性や、東日本大震災を経て安全な美術館を目指すこと、くつろげる空間等について意見をいただきました。

「子どもと美術館」に関しては、鑑賞と表現を同時に実施できる場となって欲しいという意見や、子どもたちの健全な育成における美術館の役割の大きさ等について意見をいただきました。

「ヴィジブル・ストレージ」については、そこでどのような展示が行われるか、どんな展示を求めめるか、収蔵した作品を展示する事の問題点等について意見をいただきました。

なお、アンケートで来場の皆様からは、県美術館のリニューアルに関して「鼓動が聞こえる美術館を期待したい」「宮城県らしさをどこか漂わせた美術館になって欲しい」「(基本方針中間案について)具体像が見えず現段階で優先すべき課題・方向性を検討する必要があると思った」等の意見が寄せられました。